



未来 農業 DAYs

2018年3月7日

- アワード部門：農山漁村女性活躍表彰
- コンペ部門：第2回大地の力コンペ
- 「これまでとこれから」パネルディスカッション

主催：未来農業 DAYs 実行委員会

(農山漁村男女共同参画推進協議会 & 女性未来農業創造研究会)

特別協賛：公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 後援：農林水産省

会場：東京大学安田講堂 東京都文京区本郷7-3-1

未来農業 DAYs

1. 未来農業 DAYs とは

未来農業 DAYs とは、農業の未来を担う若手農業者や女性農業者の優れた取組を表彰、支援するとともに、農業に関心のある方々の革新的なアイデアに対し支援することで、未来農業の中心となる若者・女性の取組等を広く社会に発信することを目的としています。株式会社農業総合研究所 代表取締役社長 及川智正氏による基調講演を始め、今年度から新しくなった「農山漁村女性活躍表彰」の受賞者の取組事例紹介や、第2回目を迎える「大地の力コンペ」のファイナルプレゼンテーション、双方の受賞者によるパネルディスカッションも予定されています。

未来農業 DAYs は、農業の「これまで」を知り、「これから」を創造するための新しい仕掛けです。

アワード部門

農業のこれまで
農業の活性化に貢献してきた
個人・法人、特に女性や若手を顕彰し
その知恵を共有する。

コンペ部門

農業のこれから
農業を楽しく活性化するアイデアを
共有・推進することで
未来の農業を創る。

基調講演

農業各界のトップランナーから学ぶ。

パネルディスカッション

アワード部門+コンペ部門+学生が紡ぐ未来農業

2. 概要

日時：平成30年3月7日（水） 12:00～

場所：東京大学安田講堂（東京都文京区本郷7-3-1 / TEL 03-3812-2111(代表)）

主催：未来農業 DAYs 実行委員会

特別協賛：公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

後援：農林水産省

3. タイムテーブル

- 12:00 開会
- 12:10 コンペ部門 第2回大地の力コンペのファイナルプレゼンテーション
- 13:45 アワード部門 農山漁村女性活躍表彰受賞者の取組事例紹介
- 14:35 農山漁村女性活躍表彰 表彰式（別添1参照）
- 15:20 大地の力コンペ 表彰式（別添2参照）
- 15:50 若者サミットA7報告
- 16:15 基調講演
- 16:45 両部門受賞者と学生によるパネルディスカッション
- 17:35 終了

ご挨拶

主催者よりご挨拶



◆未来農業 DAYS 実行委員長◆

納口 りり子 氏 一般社団法人女性未来農業創造研究会 代表理事 / 筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授

●経歴●

1957年生 神奈川県小田原市出身。蜜柑農家の次女として誕生し、北海道大学農学部農業経済学科卒業。その後、農林水産省の試験研究機関（東京・つくば・新潟県上越市）で21年間、先進農業経営者の経営管理や農家間の組織化などについて研究を行う。2000年から筑波大学にて、教育と研究に従事。

このたびは、未来農業 DAYS へご参加・ご来場いただき、誠に有難うございます。本会は、農業の楽しさ・奥深さをご理解いただくための一つの取り組みとして開催したものです。農業界は、これまで、分かりにくい、排他的であるとみられることが多かったのですが、実際に農業に携わる方々は、それぞれ、農業を国民の皆様により深く理解して頂こうと、様々な取り組みをされています。食や農に関する話題が、マスコミ等を通じて、消費者の皆さまの目にふれることも多くなりました。近年、このように、国民の皆様の視線が、ようやく農業に向けられるようになったことを、感慨深く思います。

本会では、アワード部門として、第一線で活躍されている農業関係者の方々の顕彰、コンペ部門として、今後、農業を活性化されるであろう応募者の方々の発表と表彰、さらには第一線の農業関連事業者の基調講演とパネルディスカッションを行います。

本日の未来農業 DAYS の開催により、農業と関連産業が、さらに輝かしい発展を遂げることを願っております。

皆様、本日のプログラムをご一緒にお楽しみいただき、農業の将来を展望して下さいよう、お願いをいたします。

農林水産省よりご挨拶



大澤 誠 氏 農林水産省 経営局長

●経歴●

1961年生 東京都出身 1984年農林水産省入省 2016年より現職。

今、農林漁業の中での女性の役割が大きく変わってきています。

大型の農業機械のオペレーターや家畜の管理をこなす、子育てする親の目線でスイーツの加工や地域の伝統的な食材にスポットをあてた商品を開発する、女性でグループを作りマルシェや輸出にチャレンジするなど、女性自らの発想と行動力で経営の主役になり、地域を元気にする例が各地に出はじめています。

本日受賞の皆さんは、そうした人たちの中から選ばれた、とびっきりのアイデアと実行力を持つ人たちです。本当におめでとう。皆さんのような若者・女性がどんどん活躍していくことが、農林漁業を変えていくことになると確信しています。

最後に、関係機関の方々、このような素晴らしい会をセットしていただいて心から感謝します。

大地の力コンペ概要

1. 大地の力コンペが目指すもの

課題多き農業ではありますが、これまでも、そしてこれからも非常に重要であり、大きなパワーと魅力を持った産業であります。その力は現代社会を悩ませる問題を解きほぐくことができるかもしれません。そのような、農業の力やそのフィールドを通してさまざまな社会課題の解決を目指す動きを「アグリ+(アグリプラス)」と名付けました。

大地の力コンペは「アグリ+アイデア」を表彰するとともに、未来に向かって大きくはばたくお手伝いをするを目的とします。

また、未来農業の中心となる若者・女性が活躍できる事業やアイデアにスポットをあてるとともに、異分野からの知恵も取り上げながら農業の裾野を広げることを目指します。

2. 大地の力コンペ 2018 テーマ

テーマは「農業 + 食の安全と健康」です。

3. 募集内容

次の分野に関わるアイデアを募集いたします。

- 「食の安全・健康」をキーワードに、女性や若者が活躍する場を提供する事業
- 「食の安全・健康」をキーワードに、女性の長所・特質をうまく活用した事例
- 食をとおした健康の維持・増進
- 「食の安全・健康」をキーワードに、地域に根差した食関連産業への理解と支援
- 「食の安全・健康」をキーワードに、環境の保全・食文化の継承
- 食育推進に資すると認められるアイデア
- 「食の安全・健康」をキーワードに、異分野から農業への新しいアプローチ

4. 審査項目

社会的インパクト

革新性

事業性

5. 審査の流れ

1次審査

2次審査

最終プレゼン
グランプリ決定!

6. アワード内容

◆社会人枠◆

グランプリ 100万円
準グランプリ 50万円
奨励賞 20万円
輝く農業賞 20万円

◆学生枠◆

グランプリ 50万円
準グランプリ 30万円
奨励賞 10万円
未来の農業賞 10万円

このほか将来の飛躍が期待できるエントリーに「未来農業シーズ賞」を授与しアイデアの芽が育つようバックアップします。

ファイナル審査員



山田敏之氏 公益財団法人日本農業法人協会 会長 / こと京都株式会社 代表取締役
<http://hojin.or.jp/> <https://kotokyo.co.jp/>

●経歴●

1962年、京都府京都市生まれ。大阪学院大学商学部を卒業後、約8年のアパレル企業勤務を経て就農。2002年、有限会社竹田の子守唄を設立、のち2007年にこと京都株式会社に組織変更を行う。2014年にこと日本株式会社、15年にこと京野菜を設立。2017年6月より（公社）日本農業法人協会の5代目会長。日本食農連携機構理事、京都府農業経営者会議会長などを兼務する。著書に『脱サラ就農、九条ねぎで年商10億円』がある。



藤井滋生氏 一般社団法人女性未来農業創造研究会 副代表理事 / 株式会社アグリインキュベーター代表取締役
<http://agriincubator.co.jp/>

●経歴●

1976年宮崎大学農学部卒業、同、ジャスコ株式会社（現イオン株式会社）入社。イオンリテール株式会社取締役、関東カンパニー支社長、アグリカルチャー PT 担当を経て2009年7月イオンアグリ創造株式会社を設立し代表取締役社長に就任。2014年農産物生産・加工・流通のイノベーションの実現を目指し（株）アグリインキュベーターを設立。傍らで農業活性化のための勉強会「八重洲塾」を毎月開催。



三輪泰史氏 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター・シニアスペシャリスト <https://www.jri.co.jp/>

●経歴●

広島県福山市出身。東京大学農学部国際開発農学専修卒業、東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻修士課程修了。2004年、株式会社日本総合研究所入社。現在、同社創発戦略センター・シニアスペシャリスト。農林水産省「食料・農業・農村政策審議会」委員、同審議会畜産部会会長、内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）・農業分野サブプログラムディレクター」等の有識者委員を歴任。主な著書に『IoTが拓く次世代農業 - アグリカルチャー 4.0の時代 -』『次世代農業ビジネス経営』『植物工場経営』『グローバル農業ビジネス』（日刊工業新聞社）、『甦る農業』（学陽書房）ほか。NHK「クローズアップ現代」、「金曜イチから」、「NHKスペシャル」、「あさイチ」、「おいしい」がニッポンを救う！、「うまいっ！」を始め、多くの番組でコメンテーターを担当。



西辻一真氏 株式会社マイファーム代表取締役 <http://myfarm.co.jp>

●経歴●

1982年福井県生。2006年京都大学農学部卒業。2007年株式会社マイファーム創業。2010年農林水産省政策審議委員就任。2014年内閣府国家戦略特区農業特区委員就任。幼少期から農業が好きだった、という想いのまま、世界中の耕作放棄地が無くなり、皆が農業を楽しめる社会になってほしいと会社を設立。自産自消の理念を掲げ、体験農園事業、アグリイノベーション大学事業、流通事業、農家レストラン事業、農産物生産事業など農業に関する多様で、新しい仕組みを産み出している。



青山浩子氏 農業ジャーナリスト

●経歴●

愛知県生まれ。86年京都外国語大学英米語学科卒業。日本交通公社（JTB）勤務を経て、90年から1年間、韓国延世大学に留学。帰国後、韓国系商社であるハンファジャパン、船井総合研究所に勤務。99年より、農業関係のジャーナリストとして活動中。1年の半分を農村での取材にあて、奮闘する農家の姿を紹介している。農業関連の月刊誌、新聞などに連載。著書に「強い農業をつくる」「農」が変える食ビジネス（日本経済新聞出版社）「農産物のダイレクト販売」（共著、ベネッセ）などがある。



檜山敦氏 東京大学先端科学技術研究センター講師 <https://star.rcast.u-tokyo.ac.jp/>

●経歴●

2001年、東京大学工学部機械情報工学科卒。2003年、同大学大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻修士課程修了。2006年、同大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了。博士研究では携帯端末と位置情報システムを開発。東京大学 IRT 研究機構特任助教、同大学大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻特任助教、同専攻特任講師を経て2016年9月より現職。高齢者の社会参加・就労を支援する「高齢者クラウド」の研究開発を展開している。著書に、「超高齢社会 2.0: クラウド時代の働き方革命」（平凡社新書）。

◆大地の力コンペ 2017 社会人枠グランプリ◆



佐藤可奈子氏 雪の日舎・かなやんファーム代表 <https://yukinohi.jimdo.com/>

●経歴●

日本の篤農家。雪の日舎・かなやんファーム 代表。1987年5月22日、香川県高松市に生まれる。香川県立高松高等学校を卒業。2011年、立教大学法学部を卒業。2009年夏、在学中に新潟県十日町市池谷集落の農業体験に参加。2011年2月20日、卒業後に池谷集落に移住、就農。2013年夏、26歳で『移住女子発信フリーペーパー ChuClu（ちゅくる）』を仲間たちと発行。2014年5月、かなやんファームを設立。2017年6月21日、平成29年度女性のチャレンジ賞を受賞。

ファイナリスト紹介 - 社会人の部



岡山農業女子会

農業女子発！おかやま農業女子カレーが展開する「農と地域と食の未来」

岡山県内の女性農業者ネットワーク「おかやま農業女子」のメンバーが生産した農畜産物を使用したレトルトカレーを商品化・販売し、その売り上げの5%でメンバーの生産した農畜産物を買取り、岡山県にある学童保育に通じた協議会を通じて、子どもたちへ学童保育の間食として提供します。これにより、農業経営の強化、食育、農業における女性の活躍の3つの問題を解決すると共に食や農を通じた子供と消費者とのコミュニケーションを拡げる女性視点のプロジェクトです。



フルーツマリアージュ

フルーツ定期宅配「果物の達人」
フルーツと人を繋ぐEコマース付きオウンドメディア

世界一美味しい日本のフルーツをみんなに食べてもらいたい。フルーツのバイヤーとして、本当に美味しく、栄養価のあるフルーツを厳選して、美味しいものが食べたい！健康に暮らしたい！という方にとって栄養価が高く、感動するフルーツを提供します。そのために、もっと健康に、美しい食生活を送る為に、フルーツの楽しさや本当の価値を情報発信、フルーツのスイーツ以外の楽しみ方や食材として日々の食事に取り入れる方法をオウンドメディアで発信しイベントを開催、さらにEコマースやイベント直販でフルーツとフルーツ関連商品を販売します。消費者・生産者・販売者を繋げるコミュニティーとしてフルーツ特化のオウンドメディアを展開していきます。



Plants Planet Project

(株)ムズラ社
カプセル型ポットで「農」の間口を広げる

多様な農作物の種子と培養土を、竹を原材料とした土に還るバイオマスプラスチック「Physeron」(フューセロン)で開発したカプセル型ポットとパッケージング。このカプセル型ポットを使用して発芽・育苗させる事により、植え替えなしでの植え付けが可能。お子様からお爺ちゃんお婆ちゃんまで。家族みんなで楽しめるガチャマシンの植物育成型カプセルで「農」の間口を広げ、農作物の多様性と里山の自然バランスを未来に繋ぎたい。

<https://www.facebook.com/shimagacha/>



一般社団法人 Mealink

大切な人の為に学ぶ、からだ想いの料理教室 MealinkLABO

20代女性に向けた、新しい形の消費者教育。『からだ想いの料理教室 MealinkLABO』は、料理技術の向上だけを目的としない、少し変わった料理教室。普段何気なく選んでいる調味料、野菜等の食材生産過程や選択肢を学び、食の消費者のプロを育成する事を目的とします。プログラム終盤にある“誰かのために料理をする”おもてなしXデー体験では、更に自身の学びが深まります。消費者の選択が変われば、食に関する様々な問題も改善すると私達は信じています。

<https://mealink.jp/mealink-labo>



BugMo

100年先も続く豊かな肉文化を。昆虫由来の動物性タンパク質フードから。

日本唯一の食用の昆虫(コオロギ)ファームを立ち上げ、環境負荷の少ない昆虫由来の動物性タンパク質フードの開発・生産を行う。コオロギ養殖過程においては、地域の農業残渣を使用、逆に農家には肥効の高いコオロギの糞を還元。野菜のみならず(昆虫)肉を生産消費する「地産地消」により、日本農業の持続的発展に寄与。次に、学校・スーパー・家庭で、食品廃棄を使い昆虫肉を栽培、収穫する「自産自消」の仕組みを日本及びアフリカで構築する牛、豚、昆虫、100年後も続く豊かな肉食文化を醸成する。

<https://www.facebook.com/BugMoFarm/>

その他の賞 - 社会人の部

未来農業シーズ賞

今回、残念ながらファイナリストに進出できなかったエントリーの中から、未来の日本農業を発展させる「シーズ（種）」となるものを選びました。未来農業 DAYs のネットワークやリソースを使用した広報・アドバイス・ご紹介を行いながら、アイデアの推進や広がりをサポートします。昨年度は大地の力コンペ 2017 表彰式のほか、延べ来場者 1 万人以上の農業系展示会「Foodex」と「アグロイノベーション」にて展示いたしました。



Jun Hagiwara and Associates

都会に住んでいた 2 人の OL が脱サラして、一から農家を初めてみた。



ポットハウス

オーチャードピクニックカフェ～自給有機循環型果樹園のそよ風と陽だまりをお持ち帰りください～

<https://item.rakuten.co.jp/pothouse/10001146/>



築地定松『プロ選別シール』 宮崎プロジェクトチーム

業務用プロと女性視点を活かした実需者ニーズを元（明確）にマーケットインの農業・流通への変革

<http://sadamatu.co.jp>



明治大学 環境・野菜合同チーム

ソバージュ栽培の緑地デザイン的手法の開発と実践



くらうんふぁーむ

耕作放棄されたビニールハウス × 家にこもる女性高齢者 × キクラゲ = 3 方良しのモデル

<http://clown-farm.com/>



ベジタ棒 プロジェクト 奈良おおの農園

全国の無農薬農家を繋いでつくる！「添加物なし！塩分なし！安心・健康な【ベジタ棒】」。保育園や学童保育への導入で子ども達の健康を守ります。

<https://okome.thebase.in/items/6137910>



浪江町発酵文化研究会

「待つ時間を、たのしくする」福島県浪江町で行う野生菌を生かした発酵文化の再建

<https://www.facebook.com/sachiko.matsumoto.5076>



TEAM831 組

「規格外野菜 = 捨てる野菜」を「多様性野菜 = 活きる野菜」に変える < 食育エデュテイメントプログラム >



Classic Lab

農村の目に見えない価値を再編集する、ゲストハウス付き研究所

<http://www.emicomorooka.com/>



糀屋団四郎

小学生でもわかる！からだに良い発酵の世界をわかりやすいアニメーションで描く。

<http://www.dansirou.com>



Nober(農場) 農業生産物の選択の幅を広げる

日本の農業を魅力あるものにする次世代食・農情報流通基盤(プラットフォーム)

<http://idea.linkdata.org/idea/idea1s2142i>

ファイナリスト紹介 - 学生の部



人と種を繋ぐ会津伝統野菜専攻班 (福島県立会津農林高等学校)

会津伝統野菜を未来へつなげていくために…

会津伝統野菜は、F1種など市場向けの野菜が普及してきたために生産者が減少し、全国的な認知度も低く、種が入手困難になっていることが現状である。さらに今後、種子法の廃止により、絶滅の危機に直面している。そこで私たちは会津伝統野菜を守り伝えていく為に生産者を増やし、認知度を上げるため、高校生によるシードバンクの運営、栽培方法の研究、6次化商品開発、食育活動、イベント販促活動・モニターツアーの実施、成分分析、G・GAP認証取得などに挑戦していく。http://www.aizunorin-h.fks.ed.jp/htdocs/?page_id=48



4代目 TEAM PINE 候補生 (青森県立名久井農業高等学校)

農業用ドローンを活用した溶液受粉を行い、果樹農家の受粉作業を請け負います。

青森県南部町で生産量の多いサクランボやリンゴは、自家不和合性が強く、他品種の花粉でなくては受粉しないことから、安定した生産を行うためには受粉作業はなくてはなりません。私達の先輩は溶液受粉に着目し、農業用ドローンを活用して受粉作業が行えないかと考えました。実際に散布実験を行った結果、中心果の結実率が約40%となり、十分実用可能だと考えた私達は、「農家の果実、実らせ隊!!」を結成し、農家の受粉作業を請け負うことを提案いたします。



SHOKUTAKU (明治大学商学部商業科 / 株式会社 OReNAS)

子どもとの食卓に豊かさと安心を。安心安全な離乳食キット

現代、家事をにおいては時短を意識する傾向が強まっている。離乳食においても時短の流れから缶詰や瓶詰めの既製品の売り上げが伸びている。しかし、本当に想いを持って農作物を作っている農家さんの安心・安全な農作物を自分の手で料理し、愛情こもった離乳食から継続的な食育をして欲しい。そんな想いから、食に敏感になる女性層をターゲットとし、離乳食キットを提供。現代女性の社会進出による家事への負担を軽減しながらも、食事に妥協はしない。そんな生活をご提案。



農業部バイオテクノロジー班 (山形県立村山産業高等学校)

ジネンジョ農家を完全バックアップ! 苗生産から栽培、加工品開発まで全部やります!

私たちは、山形県の大石田町で生産されているジネンジョを研究テーマとして、バイオテクノロジーを用いた苗生産や栽培技術の効率化、加工品開発から販売に関する研究を行っている。これまでに、ウイルスフリー苗の効率的な生産方法の確立や栽培段階におけるマルチングを用いた収量の向上、パイプ内用土を軽量化することによる省力化に関する研究、ジネンジョを用いた自然薯パンや自然薯サンド、自然薯豚丼の開発と大石田町の加工業者と協力した商品化と販売に取り組んだ。<http://www.murayama-ih.ed.jp/>



猿投農林高校 畜産研修班 (愛知県立猿投農林高等学校)

ゴミを食べる豚～ECOでSWEETな豚肉生産～

日本の食品廃棄量は世界でも1、2位を争うほど多い。私たち農業高校生に何かできないか考えた。そこで、かつて行われていた「残飯養豚」という飼育方法をヒントに、棄てられる食品を豚の代替飼料とした。豊田市内の洋菓子店や、パン屋さんから廃棄食品を譲り受けることで、地元の食材を使い、地元で生産し、地元で販売、消費できる。食品廃棄の減少に貢献するとともに、飼料費を削減し経営改善を図る。環境にecologicalで、豚に、経営者に、地域にsweetな循環型養豚である。www.sanagenorin-h.aichi-c.ed.jp



京の伝統野菜を守る研究班 (京都府立桂高等学校)

京都に新たな漬物文化の構築を目指して

私たちは京野菜のシードバンクを担うため、需要が減少した品目に新たな利用方法を見出すことで、後生に繋げる活動をしている。そこで、京野菜の加工品として最もポピュラーな漬物に注目した。しかし減塩志向から需要が減少。そこで塩分が少ないピクルスに着目し、酸味を抑えた和風ピクルスを完成させた。京野菜の独特の風味を香味野菜として活用し、美味しい減塩食を地元病院と開発し、定期的に提供している。先輩から受け継いだ種子を守る活動は、他府県に広がっている。<http://www.kyoto-be.ne.jp/katsura-hs/> 病院とのコラボ：http://katsura.com/nutritionist_blog/8832 ピクルス：<http://shop-idsumi.com/SHOP/185338/list.html>

その他の賞 - 学生の部

審査員長特別賞

若者の就農は厳しいのか？高校一年生がチャレンジする「儲かる農業」の証明。

農業高校卒業生の就農率は2.6%、農業大学校等へ進学した者の割合は4.2%となっています（2015年度農林水産省調べ）。その低さの理由はさまざまですが、ひとつに収入面の心配があります。チーム Farm hack の目標は、そんなマイナスイメージを自らの手で払拭すること。彼らの今後の活躍に注目しています。



Farm hack (広島県立世羅高等学校)

全国初！高校生による農業経営公開プロジェクト「鯉米」

広島城は別名「鯉城」とも呼ばれ、地元プロ野球チーム「広島東洋カープ」の名称にも使われるなど、鯉は広島と縁の深い魚。最近ではアメリカやヨーロッパ、東南アジアなど海外へも輸出しておりとても人気です。しかし、養殖過程では発色の良い鯉以外の稚魚は、選別され廃棄されています。この廃棄される稚魚を活用した無農薬の米生産を行い、耕作放棄地の活用と大きく育った鯉を使った魚醤を作り、地域に根差した食関連産業への理解と支援を目指します。

未来農業シーズ賞

食育・農業の活性化につながるさまざまな取り組みとアイデアを取り上げました。



士幌高校 有機農業専攻班 (北海道士幌高等学校)

士幌町からオリンピック・パラリンピックへ！～W認証取得による経営確立を目指して～



Philo&Sophy (宇都宮大学)

妊婦さんも安心！「玄米ママ糍」を自然栽培農家と作る食べる玄米糍甘酒



疑似株式会社 HK Tコーポレーション (産業能率大学 経営学部 倉田ゼミ)

農(みのり)の絆～都会を舞台に地方の女性農家との農業ビジネスの架け橋となる



tawashi (工学院大学工学研究科建築学専攻)

都会の空き家を温室化することで農業に触れる最初の一步目の「場所」作りを行う

<https://www.facebook.com/zakky.onlyone>



先端台の力で 能美の大地を元気に (北陸先端科学技術大学院大学)

旅しに来んかいね～ワンストップで能美の農業を堪能できるアグリ・コンシェルジュ



園芸福祉クラブ (長野県下高井農林高等学校)

地域とともにいきいき！私たちの目指す園芸交流 ～農園を人の居場所にしたい～



Goodbye Monkey👉 (鳥羽商船高等専門学校)

サルを対象としたIoT 獣害対策システム

<https://www.toba-cmt.ac.jp/index.html>



はるか応援隊 (福岡県立糸島農業高等学校)

糸島で誕生したみかん「はるか」の丸ごと活用術を伝授します！

<http://itoshima-ah.fku.ed.jp>

大地のカコンペ 2017 受賞者の活躍報告

大地のカコンペでは、優れたプロジェクトで日本の農業がより元気になるよう、受賞者を継続的にバックアップしていきます。以下は前回の受賞者が大地のカコンペで取り上げられることでどのように発展したか、今後どう展開したいかをインタビューしたものの一例です。プロジェクトの内容や、他の受賞者は大地のカコンペウェブサイトご報告しています。 https://daichi-no-chikara.awable.org/result_1st/

社会人枠 2017 グランプリ



雪の日舎 佐藤 可奈子 代表

賞金額 100 万

Q. 受賞によりプロジェクトにどのような影響がありましたか？

Web ページ制作・デザイン費、雪国子どもおやつ試作商品開発・加工機器購入などに利用。プロジェクトを実現するにあたり、周囲への説得力が増した。また、支援者や仲間を増やすことができた。

今後、農家民宿として運営していた古民家を譲っていただくことになったので、改修し、事業の拠点としたい。農業 x 保育の実現できる場にしていきます。

社会人枠 2017 準グランプリ



ミズノイリ 塩谷 吉郎 代表

賞金額 50 万円

Q. 受賞によりプロジェクトにどのような影響がありましたか？

地下水を利用した希望拡大（生産システム確立）を想定しているため、地下水のくみ上げ費用として使用。テストプラント資材を購入し、わさびの生産効率化に向けた取り組みを行っている。今後は、独自の生産システムを確立させ、海外におけるわさび生産に取り組みたい。

学生枠 2017 グランプリ



地域資源で町おこしーず 兵庫県立篠山東雲高等学校

賞金額 50 万円

Q. 受賞によりプロジェクトにどのような影響がありましたか？

廃校になった福住小学校において、地域特産品の「丹波黒大豆」を用いた黒豆味噌作りを開始しています。その準備資金として機材購入費（換気扇の取り付け工事、水道の整備、ガスの設置など、製造許可の取得）に、原料である黒豆や麴、塩等の購入費、その他地域の女性グループとの製造や丹波焼作陶経費等への支払い、消耗品費など賞金を使用して活動を展開中です。今後はもっと取り組みを充実させ、地域ブランド化を目指しています。

学生枠 2017 準グランプリ



GB レタス交流モデル増高 ver. 秋田県立増田高等学校

賞金額 20 万円

Q. 受賞によりプロジェクトにどのような影響がありましたか？

高齢者と交流してきたスーパーに常設の水耕レタス栽培装置を設置し、その装置を使用して、交流会を継続しています。簡易装置よりも高品質のレタスが長期間収穫できるので、大変喜ばれています。また、当初の目標であった、「高齢者がその装置を使用して栽培したレタスを販売し、収入を得る」ということを実現するために、レタス軽量用のはかりや販売用の袋など、調整・販売活動に必要なものを購入しました。

今後は秋田県の食文化である山菜の栽培や収穫に取り組みたいと考えています。

平成29年度農山漁村女性活躍表彰

目的

農林水産業に従事する女性は、農山漁村を支え、農山漁村生活の充実と6次産業化をはじめとした地域経済の活性化に重要な役割を果たしており、その能力が一層発揮されるよう支援していくことが必要です。

また、女性の役割の重要性が高まっている中、地域社会や農林水産業経営や政策・方針決定過程への女性の参画状況、関係組織への登用状況は、いまだ十分でないことから、さらなる参画の拡大を促進するとともに、女性農林水産業経営者の能力を最大限に活かし活躍してもらえよう環境を整備し、次世代リーダーとして農山漁村を引っ張る女性を増やしていくを通じ、農林水産業の発展を図ることが必要です。

このため、農林水産業及び農山漁村の活性化や農林水産業経営や政策・方針決定への女性の参画推進、次世代リーダーとなりうる若手女性の農林水産業への参入など女性活躍推進のために積極的に活動している個人又は団体を表彰することにより、女性が農山漁村でいきいきと活躍できる環境づくりの推進に資するものとします。

受賞個人・団体

最優秀賞

(農林水産大臣賞)

A 女性地域社会参画部門	群馬県	前橋市	青木 朱美
B 女性起業・新規事業開拓部門	熊本県	天草市	益田 沙央里
C 家族経営女性参画部門	長野県	長野市	羽生田 寿子/羽生田 春樹
D 女性活躍農業法人部門	静岡県	浜松市	株式会社 カクト・ロコ
E 女性登用・組織参画部門	岩手県	盛岡市	いわてポラーノの会
F 若手女性チャレンジ部門	富山県	入善町	森下 さゆり

優秀賞

(経営局長賞)

A 女性地域社会参画部門	埼玉県	さいたま市	見川 せつ子
B 女性起業・新規事業開拓部門	栃木県	益子町	布瀬 智子
C 家族経営女性参画部門	長崎県	島原市	松本 綾子
D 女性活躍農業法人部門	埼玉県	吉見町	有限会社サニベルグリーンハウス
E 女性登用・組織参画部門	福井県	福井市	福井県農業委員会女性委員の会
F 若手女性チャレンジ部門	香川県	さぬき市	金江 ちひろ

(林野庁長官賞)

愛知県 大口町 前田 臣代 (B 女性起業・新規事業開拓部門)

(水産庁長官賞)

三重県 尾鷲市 株式会社 梶賀コーポレーション (A 女性地域社会参画部門)

優良賞

(全国森林組合連合会長賞)

石川県 金沢市 もりラバー林業女子会@石川 (F 若手女性チャレンジ部門)

(全国農業協同組合中央会長賞)

香川県 東かがわ市 木村 京子 (A 女性地域社会参画部門)

(農山漁村男女共同参画推進協議会長賞)

A 女性地域社会参画部門	北海道	遠軽町	白滝じゃが生産部会加工班
B 女性起業・新規事業開拓部門	群馬県	昭和村	保坂 洋子
F 若手女性チャレンジ部門	鹿児島県	指宿市	大吉 枝美

審査員



◆審査員長◆

岩崎 由美子氏 福島大学行政政策学類 教授

●経歴●

埼玉県生まれ。早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。住民主体の計画づくり、農山村地域活性化、農村女性起業、震災からの地域復興などを研究。主な著書として、『食と農でつなぐ 福島から』（岩波書店、共著）、『小さな自治体の大きな挑戦—飯舘村における地域づくり』（八潮社、共著）、『女性の参画と農業・農村の活性化』（全国農業会議所）、『成功する農村女性起業』（家の光協会、共編著）など。



納口 りり子氏 一般社団法人女性未来農業創造研究会 代表理事 / 筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授

●経歴●

1957年生 神奈川県小田原市出身。蜜柑農家の次女として誕生し、北海道大学農学部農業経済学科卒業。その後、農林水産省の試験研究機関（東京・つくば・新潟県上越市）で21年間、先進農業経営者の経営管理や農家間の組織化などについて研究を行う。2000年から筑波大学にて、教育と研究に従事。



五條 満義氏 東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科 准教授

●経歴●

全国農業会議所に8年間勤務後、1997年々に東京農業大学専任講師、2003年に助教授、07年から准教授。国の第2次・第3次・第4次「男女共同参画基本計画」の策定をめぐり、内閣府男女共同参画会議専門委員を務めた。著書に『家族経営協定の展開』（筑波書房・2003年）、『中国の大学と農村は今』（東京農大出版会・2008年）、『家族経営協定 最前線』（全国農業会議所・2010年）などがある。



小川 理恵氏 JC 総合研究所 主席研究員

●経歴●

一般社団法人JC総研 基礎研究部 主席研究員。1997年に、JC総研の前身である社団法人地域社会計画センターに入会。総務課長、企画調整室長を経て研究職に職種転換、現在に至る。研究分野は地域づくりと女性活動。主な著書に『魅力ある地域を興す女性たち』（農文協、2014年）、「躍動するJA女性部が核となり地域活性化をプロデュース～JA静岡市女性部美和支部 アグリロード美和～」石田正昭・小林元編著『JA新流 先進JAの人づくり・組織づくり』（全国共同出版、2016年）、『営農経済事業イノベーション戦略論』（共著、筑波書房、2018年）他。



永井 進氏 株式会社 永井農場 代表取締役 www.nagaifarm.co.jp

●経歴●

1971年、長野県小県郡東部町（現・東御市）生まれ。北海道酪農学園大付属高校 酪農経営科、北海道文理科短大酪農科で学び、卒業と同時に就農。

1996年、農業生産法人 有限会社永井農場を設立 2009年8月、代表取締役就任。

『よろこばれる』を会社のミッションとして地域に根差した循環型農業を基盤にして生産から加工販売まで6次産業化を展開。2011年、第50回農林水産祭において天皇杯を受賞



安形 京子氏 （一社）全国農業経営コンサルタント協会 理事 / 安形税務会計事務所 税理士・行政書士

●経歴●

福島県会津生まれ。1974年名古屋市民生局委託社会福祉施設に勤務。その後養豚農家に嫁ぎ農業の現状を知る。税理士事務所に勤務の傍ら経済学部部に編入し 1995年安形税務会計事務所を設立。当初より農家の応援を使命と位置づけ愛知県農業経営改善支援センタースペシャリストに登録し県の普及所、市の農政課、JA関係等の依頼で農業簿記会計及び税務の講師。（一社）全農協会員登録し当組織での農業簿記検定試験立上げメンバーに加わり、教科書作りや試験委員にて活動。日本政策金融公庫農業経営アドバイザー試験合格、食Pro. レベル3取得、AFP、経営革新等支援機関認定。日頃は税理士事務所の所長として個人・法人・資産税等の税務会計に従事。

受賞者

平成29年度農山漁村女性活躍表彰では、以下の7部門を表彰いたします。

A. 女性地域社会参画部門

農山漁村の女性が中心となった地域の農林水産業の振興及び農山漁村の活性化のための活動等を中長期に渡り積極的に実施している取組。

B. 女性起業・新規事業開拓部門

女性ならではのアイデア等に基づいた起業活動や新規事業により成果を得ている取組

C. 家族経営女性参画部門

家族経営協定の締結を契機に仕事・生活面において役割分担を明確化し女性が活躍している取組

D. 女性活躍農業法人部門

女性のキャリア形成・育児などの就業規則等、女性が働きやすい環境整備している法人

E. 女性登用・組織参画部門

政策・方針決定過程への参画を推進するため、積極的に役員等への女性登用に努め効果を上げている組織

F. 若手女性チャレンジ部門

他産業で培った知識を活かした取組やこれまで女性が携わることの少ない部門への参画など若手女性の取組

農林水産大臣賞

A. 女性地域社会参画部門



青木 朱美 群馬県前橋市

農業後継者として就農。結婚後は野菜栽培に取り組み、認定農業者としてパートナーシップ経営を実践。消費者や子ども達に自然とのふれあいや農業の大切さを伝えたいとFANクラブ（富士見村の農業と自然を愛し守る会）を設立。食農体験活動の先駆的事例として地域内交流から国内、海外の都市交流事業にも発展させる。ぐんま女性農業委員会女性ネットワーク会長、群馬県男女共同参画協議会推進委員会委員など前橋市・群馬県における各種委員会の委員をつとめ、女性の社会参画推進と地域発展に貢献している。

地域の魅力を次世代につなぎます

農林水産大臣賞

B. 女性起業・新規事業開拓部門



益田 沙央里 熊本県天草市

クルマエビ養殖業界の衰退に危機感を抱いた氏は販売部門を立ち上げ、1年目は自作のチラシのポスティングから始め、5年で売上を12倍に伸ばす。環境悪化により、前年の1/3の生産量となった年には、同業者との交流に取組み、新たな販売の仕組みを構築するなど、常にピンチをチャンスに変えて事業を行ってきた。現在は、自社の販売部門を独立・株式会社化させ、地元農林水産品約300商品を扱う。取組は天草の生産者や取引先、地域全体を活性化させる活動となっている。

百年先も天草で生産を続けたい

農林水産大臣賞

C. 家族経営女性参画部門



羽生田 寿子／羽生田 春樹 長野県長野市

結婚当初から栽培全般に関わる。平成11年に家族経営協定を夫・義両親と締結し、役割分担の明確化、休日の導入等、企業的な経営理念を積極的に取り入れている。規格外のりんごに付加価値を付けるため、「天日干しりんご」の加工所を平成26年に建設、同年「株式会社はねげん」を立ち上げた。長野県農村生活マイスターとして、例年有志で「長野市女性市議と女性農業委員との懇談会」を開催、農村女性の声を施策に反映する活動を行っている。

夫婦で仲良く、りんご一筋40年

農林水産大臣賞

D. 女性活躍農業法人部門



株式会社 カクト・ロコ 静岡県浜松市

設立は平成16年、経営主の妻野末信子氏が代表取締役现就任。当時一般的ではなかった多肉植物のPRのため、全国のホームセンターを巡回、寄せ植え体験を行うなど、知名度を上げる活動を代表自ら実践。また、地域の女性を積極的に雇用し、女性の視点や感性を活かした事業を展開して、売り上げを伸ばしてきた。育児休業中の代替要員の確保や時短勤務、パートから正規雇用への登用など、制度面でも働きやすい職場環境の整備に努めている。

野末信子社長と社員の皆さん

農林水産大臣賞

E. 女性登用・組織参画部門



いわてポラーノの会 岩手県盛岡市

平成28, 29年(7月時点)に新体制に移行した17全ての市町村長、議会議長に対して、会の理事、会員が女性農業委員の登用について要請活動を行った他、後継者等を対象とした農業委員会業務等の勉強会の開催、候補者のリストアップ・訪問勧誘なども実施。各地区の役員が中心となり、地区別懇談会、女性農業者との意見交換会や農業委員会業務のスキルアップを図るための研修会も開催。28年度末には、全ての市町村で女性の農業委員が選出され、女性の割合は13.7%で全国1位となった。

松本会長と会員による要請活動

農林水産大臣賞

F. 若手女性チャレンジ部門



森下 さゆり 富山県入善町

非農家出身の森下氏は平成3年結婚。早折した姑に代わり、家事、家庭管理を担いながら、特産の入善ジャンボ西瓜の販売管理と顧客管理、経理も担当した。平成6年に法人化、取締役に就任。園芸部門の責任者となり、西瓜に次ぐ作物「モモ」を導入、野菜の生産も始めた。地域の若手女性と野菜の生産管理を学びながら直売所の品目と量を拡大し、それぞれの経営発展の機会を作ろうと、組織を創設。活躍は県下にも周知され、富山県農業法人協会の副会長、富山県農政審議会の委員にも就任。

園芸責任者として新作目に挑戦!

経営局長賞

A. 女性地域社会参画部門



見川 せつ子 埼玉県さいたま市

地域の若手女性グループの活動を起点とし、地産地消に継続的取り組み、学校給食への地場農産物の活用率を7年間で4.3倍に増加させた。一般消費者に向けた料理講習会等で、特産野菜の維持・普及、伝統食の伝承に取り組む。平成14年ブルーベリー摘み取り園と加工所、市内初の農家レストランを開設し、都市近郊の観光農業の先駆的事例となる。活動は県域を越え、JA埼玉県女性組織協議会会長として活躍した他、現在JAさいたま総代、さいたま市都市農業審議会委員に任命されている。

農村レストランでの視察受け入れ

経営局長賞

B. 女性起業・新規事業開拓部門



布瀬 智子 栃木県益子町

県産の牛乳と、県オリジナルブランドのいちごや県産果物等、県産農産物をふんだんに使用したこだわりのジェラートを数多く開発。また、町やJA、酒蔵、窯元等と連携、地域の活性化を目的とした協議会を立ち上げ、観光バスの周遊ルートの開拓を行うなど、積極的に地域経済の活性化にも尽力。新規事業の開拓と積極的な誘客は、農村地域の女性の雇用創出につながり、起業に関する講師役を担う等、女性活躍の環境づくりにも貢献している。

直営店におけるジェラート販売

経営局長賞

C. 家族経営女性参画部門



松本 綾子 長崎県島原市

松本氏は、非農家出身。生姜を中心とした露地野菜専門農家に嫁ぐ。平成23年度JA中央会主催「ご当地スイーツコンテスト」で最優秀賞を受賞したのをきっかけに加工品開発に積極的に取り組む。家族経営協定を締結した平成25年に加工所を建設。6次産業化総合化計画が認定され、夫が総責任者、綾子氏を商品開発および販路開拓担当として位置づけ、加工開発・販売だけでなく農商工連携による新たな地域特産品作りを始めた。平成29年に法人化。

人とのつながりが我が家の財産

経営局長賞

D. 女性活躍農業法人部門



有限会社サニベルグリーンハウス 埼玉県吉見町

代表の妻である取締役と女性従業員が中心となり、他に先駆けて直売部門を併設、消費者向けの園芸講座を開講するなど、積極的なPR活動を実施、売り上げを向上させている。また、外部での活動も積極的に行っており、取締役を中心に、花卉園芸関連団体主催の園芸講座や、指導者の育成にも注力している。育児、介護休暇、短時間勤務等の制度や作業や資材を工夫し、女性が働きやすい環境を整備している

社員講師による寄植え講座

経営局長賞

E. 女性登用・組織参画部門



福井県農業委員会女性委員の会 福井県福井市

平成22年度に設立以来、北信越ブロック研修会、全国女性農業委員登用促進研修会に参加し、女性が参加する会合および常設審議委員会にて報告。改選時には、女性委員の継続登用や、女性委員がない委員会の解消に向け、当会の女性委員・推進委員の役割や、必要性をアピール。地域での登用に、理解・協力を依頼している。新制度に移行した委員会では、農地利用最適化推進委員に女性委員が5名登用され、女性委員が増加した委員会は2市町、女性委員がない委員会は1町となった。

女性委員登用を委員会席上で説明

経営局長賞

F. 若手女性チャレンジ部門



金江 ちひろ 香川県さぬき市

学生時代より援農に参加するなど、農業に関心を持つ。雇用就農を経て、養鶏場を営む金江氏と結婚。経営に参画するとともに、直売に加え付加価値をつけた料理やさぬき市の地域資源である桑の葉を活用したスイーツ等加工品を販売する店舗「かなたまキッチン」も開店する。東讃地域の女性農業者の組織を立ち上げ、学生、企業とのプロジェクトを実施するなど、地域と密着した活動にも積極的に取り組んでいる。

直営店「かなたまキッチン」にて

林野庁長官賞

B. 女性起業・新規事業開拓部門



前田 臣代 愛知県大口町

全国に先駆けてコンテナによる苗木の生産を手がける。調査研究を重ね、苗木生産の課題である得苗率の向上に努めるとともに、器具の開発、改良を行い作業の軽減化を進め、地域の女性や高齢者の雇用創出に繋げている。また、新規参入希望者の視察も受け入れ、経験や技術について惜しみなく伝える。愛知県林業種苗協同組合では平成19年から理事を務め、29年には組合初の女性理事長となり、種苗生産技術の向上、優良種苗の安定供給に尽力している。

子孫の未来を苗に託し育ててます

水産庁長官賞

A. 女性地域社会参画部門



株式会社 梶賀コーポレーション 三重県尾鷲市

地区の婦人会を母体に、梶賀町に100年以上前から伝わる未利用魚を使った燻製保存食、「梶賀のあぶり」の製造・販売を行う。商品の改良、PR活動、商談会への参加など、地域おこし協力隊と連携し県内や、東京などでの販売の他、体験や、古民家を利用したカフェでの食事提供も始める。訪問客や取材の増加など波及効果により、町の知名度も向上。人口減少や高齢化が進む梶賀町を活性化し、新たな雇用の場を生み出したいと、町民有志も出資し29年4月株式会社化した。

あぶりが町おこしのきっかけに!

全国森林組合連合会長賞

F. 若手女性チャレンジ部門



もりラバー林業女子会@石川 石川県金沢市

平成25年に森林の保全や森づくりの進展のため、一般の人に林業に対する理解を深めてもらうことを目的として設立された。年4回程度、森林と木の役割を知るイベントを開催、SNS等を通じ、林業や森づくり、里山に関する情報の共有・発信に取り組んでいる。4人で発足した会は現在89人となり、多くの女性に林業の魅力や森林資源の利活用の大切さを伝え、今後も更に活動の拡がり期待される。

森の女子会・オトメな遠足

全国農業協同組合中央会長賞

A. 女性地域社会参画部門



木村 京子 香川県東かがわ市

木村氏は夫妻で農林業を営み、平成19年度に家族経営協定を締結。自宅横にイノシシの解体を行う食肉処理場と直売所を設け、獣害軽減と地域の特産品づくりに努めている。平成13年に直売所「五名ふるさとの家」を開設。五名地域の産物の販売や自然と触れ合う体験教室を主催。地域住民や、都市住民との交流の場となっている。各種研修会や交流会に積極的に参加し、農業研修生の受け入れなど担い手育成にも真摯に取り組んでいる。

地元の郷土料理を次世代に

農山漁村男女共同参画推進協議会長賞

A. 女性地域社会参画部門



白滝じゃが生産部会加工班 北海道遠軽町

合併によってなくなる村名を残そうと、特産品のじゃがいものブランド化に村をあげて取り組む中、生産する女性農業者が自分たちができるPR方法として加工班を結成。レシピを販売時に同封する他、じゃがいも料理のレシピを公募・PRする料理コンテスト「じゃがリンピック」を開催。発行したレシピ本は、6,800部を売り上げた。取組は、白滝じゃがの知名度を上げるだけでなく、町外との交流人口増加など、地域活性化に繋がっている。

次世代につなぐ白滝への想い!

農山漁村男女共同参画推進協議会長賞

B. 女性起業・新規事業開拓部門



保坂 洋子 群馬県昭和村

平成14年、赤城高原サービスエリア内で、ほさか農園としていちごの直売を開始。平成20年には野菜コーナーを任されたことを契機に、自家農産物だけでなく、「昭和アグリ」を組織して、地元野菜の販売を行う。生産者がよい物を作り、自ら農産物に適正価格をつけ販売するという高付加価値農業の先駆けとして事業展開しており、地域農業の振興における貢献度は高い。

プレミアムやよいひめとハウスにて

農山漁村男女共同参画推進協議会長賞

F. 若手女性チャレンジ部門



大吉 枝美 鹿児島県指宿市

夫と共に農業経営に参画し、栽培管理の他、営業活動、雇用管理、複式簿記記帳による経営管理等を担っている。「女性農業次世代リーダー育成塾」で事業経営について学んだことを活かし、自社農園のブランド化やJ-GAP認証の取得など、高品質な農産物の生産や新たな販路開拓、規模拡大と事業を展開している。また、地域の高齢者や子育て期の女性を積極的に採用するとともに、女性が働きやすい環境の整備にも取り組んでいる。

マルシェで自社ブランドをPR

基調講演 & パネルディスカッション

基調講演

及川氏率いる株式会社 農業総合研究所は、東京・大阪を中心とする都市型スーパーマーケットでも、生産者直送の新鮮農作物を購入できる「農家の直売所」を展開している。生産者に新しい販路の提供を行いながら、消費者にも近所のスーパーで「顔の見える作物」を購入できる機会を提供している。



及川智正氏 株式会社 農業総合研究所 代表取締役社長

<http://www.nousekouken.co.jp>

●経歴●

昭和 50 年 1 月 2 日東京生まれ。1997 年東京農業大学農学部経済学科卒業。
学生時代から農業への危機感を覚え、会社員を 6 年間経験後、農業界へ転身。自分で農業を 3 年、八百屋を 1 年実践し、その経験を活かし、2007 年に現金 50 万円で農業総合研究所を設立。起業後 10 年で取扱高 70 億円を達成。平成 28 年東証マザーズへ上場。多数のメディア出演や講演活動、農林水産省の委員、大学の講師も務める。農業界の急成長企業、そして、農業ベンチャー初の上場企業として全国から注目を浴びている。趣味はタップダンス。

●表彰●

フードアクションニッポンアワード 2014 優秀賞 受賞
Japan Venture Awards 2016 経済産業大臣賞 受賞

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、アワード部門・コンペ部門からそれぞれ受賞者が参加。A7 若者農業サミットの参加者を加えた 6 名で意見交換を行います。農林漁業を支えてきた先駆者と、これからその道を開拓していく若者たちが経験・知恵・発想を交え、日本の一次産業の未来を明るく照らします。

ファシリテーター

納口 るり子氏

アワード部門より



○農林水産大臣賞 (A. 女性地域社会参画部門)

青木 朱美氏 群馬県前橋市

○農林水産大臣賞 (B. 女性起業・新規事業開拓部門)

益田 沙央里氏 熊本県天草市

コンペ部門より



○社会人枠 グランプリ受賞者

コンペでの社会人枠 最優秀賞者が参加します。

○学生枠 グランプリ受賞者

コンペでの学生枠 最優秀賞者が参加します。

A7 若者農業サミット 主催者・参加者より



○A7 若者農業サミット 2017&2018 実行委員長

堀内 優花氏 宇都宮大学

○A7 若者農業サミット 合宿・A7 2018 参加者

田畑 華子氏 日本大学

一般社団法人 農山漁村男女共同参画推進協議会について

設立趣旨と目的

農山漁村の女性は、農林水産業の維持・発展や地域社会の活性化に大きく貢献しています。しかし、農山漁村における政策・方針決定の過程への女性の参画の現状は依然として不十分であり、また、経営においても働きに応じた経済的評価や就業条件、経営上の地位の確立が進みつつあるもののまだ充分であるとは言えません。更に、自らの意志による起業ビジネスの展開や仕事と子育ての両立、ワーク・ライフ・バランスのとれた暮らし方などの観点からも課題が山積しております。

このような中、食料・農業・農村基本法及び男女共同参画社会基本法が制定されて10年を経た今、一層の社会参画、経営参画の推進が求められております。

また、昨今の厳しい経済状況の下で、仕事と生活の場が密接に関わる農山漁村での暮らしの豊かさが実感できるようにしていくことが、充実したシニアライフや若い世代が農業を仕事と選び農山漁村に定着していく上で重要であり、それらのベースとなるのが、農山漁村における男女共同参画社会の実現であります。そこで、農山漁村の男女共同参画に関係する全国団体からなる「農山漁村男女共同参画推進協議会」を設立し、現状と問題認識の共有・解決に向けた展開方向・具体的な活動内容・男女共同参画に関する人的ネットワークの強化等について、統一的にあるいは分担して取り組むため、関係者の総意のもと、「農山漁村男女共同参画推進協議会」は設立されました。(平成22年2月8日設立)

7つの全国団体で構成されています。(事務局：JA 中央会，全国農業会議所)

- ・JA 全国女性組織協議会
- ・全国農業委員会女性協議会
- ・(一社) 全国農業改良普及支援協会
- ・全国生活研究グループ連絡協議会
- ・全国漁協女性部連絡協議会
- ・全国林業研究グループ連絡協議会女性会議
- ・(公社) 日本農業法人協会

一般社団法人 女性未来農業創造研究会について

設立趣旨と目的

日本の黎明期から現代まで、長きにわたり私たちの生命を支えてきた日本農業。近代においても、戦前戦後とそれに続く高度経済成長期の土台となってきました。その日本農業が今、様々な要因のもとで大きな転換を迫られています。需要の低迷・担い手の不在・頭打ちの販売価格・進まない大規模化など。加えてTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)という大きな波が打ち寄せようとしています。

そんな多くの課題の日本の農業ですが、その必要性は常に変わることなく存在し、今後も高度かつ持続的に発展してゆかなければなりません。これまで以上の高い生産性一量と質、両方の確保一を実現させるため、大きな「進化」が求められています。

新しい未来農業を創造する担い手、その一端は確実に女性が負ってゆくでしょう。日本農業のこれまでのパラダイムを動かす女性たち。わたしたち女性未来農業創造研究会(農創研)の目標は、そのような女性リーダーとそれに続く女性農業者を盛り上げ、共に成長してゆくことにあります。

実際の農業者を中心に、第一線の研究者、国を動かす行政者と共に議論し、具体的な方策を提言、発信、実施する。女性未来農業創造研究会はそのような行動力のある会を目指して活動しています。

組織と活動実績

シンポジウム：年に1～2回の開催を予定。蓄積された知見を社会に還元します。

勉強会：3ヶ月に1回程度の頻度で勉強会を行っています。講師には農業者・実務家・企業・研究者など多様な方々をお呼びし新しい知見を得ることを目指します。

委員会：理事・会員が興味を持つ分野について専門家を中心として活動を行います。

EX)女性が使い易い農業機器とは / 6次化(商品開発)女性農業者を支えるICTなど

研修会：委員会の出口として見学会等のイベントを行います。

広報：農創研に蓄積した知見をメルマガ・ウェブサイト Facebook で発信します。

大地のカンコンペ：農業の楽しさを広げるために、様々なアイデアを募集し、共有します。

八重洲塾：農業を広い視野で知る活動「八重洲塾」に協賛(株式会社アグリインキュベーター主催)。

未来 農業 DAYs

未来農業 DAYs は、以下のご協力のもと
農業の楽しさを広げるために活動しています。

主催：未来農業 DAYs 実行委員会
共催：農山漁村男女共同参画推進協議会 & 女性未来農業創造研究会
特別協賛：公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
後援：農林水産省

WEB サイトや SNS で発信していますので、是非御覧ください。

○未来農業 DAYs

Web: <https://www.mirainogyodays.org/>
Facebook: <https://www.facebook.com/mirainogyodays/>

○農山漁村男女共同参画推進協議会

Web: <https://www.nca.or.jp/support/farmers/common/>

○一般社団法人 女性未来農業創造研究会

Web: <http://awable.org/>
Facebook: <https://www.facebook.com/awable.org/>

□総合事務局□

一般社団法人 全国農業会議所 農政・担い手対策部内